

2021年度 杜若市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2022/9/30

団体名	NPO法人パラダイム	活動タイトル	学習支援塾パラダイム		
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p align="center">■ 活動風景</p>		
<p>●地域の望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当団体のビジョンは「子どもからお年寄りまでが生きる力を育み、成長し合える環境をつくることで楽しく笑顔の絶えない社会を目指します」である。常に変化する現代社会においても、充実した支援を行いすべての世代が生きる力を養うことができる社会を目指す。そして、地域住民同士が相互に自分の知識や技術を分かち合う社会づくりが望ましい。その社会では、不平等な格差がない、笑顔であふれる社会である。子ども達にとっても学習面において地域に頼ることができる社会づくりの為に活動する。</p>		<p>学習支援をしている様子（小学生）</p> 		
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>望ましい社会状況を達成するために、学習支援の場を持続的に運営することが当団体の社会的役割である。学習支援を必要とする子ども・保護者、ボランティアスタッフの双方において参加する価値のある場を構築していくことが、持続的な運営に繋がる。子ども達には学力面にはもちろんのこと、自立心や自己肯定感を高めるような支援を提供する。スタッフは、社会貢献することの意義付けや子どもとの信頼関係構築スキルなどを育むことで、断続的ではない、積極的かつ主体的な参画を促していく。</p>			<p>学習支援をしている様子（中学生）</p> 	
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>人材育成：ビジョンに賛同する人材や学習支援活動に意欲的に参加する人材が望ましい。また、子どもたちと一緒に考え高め合えることができる人材を育成する。 物的資源：子ども達が使用する教材が常時全員に行き渡ることを最優先とし、当団体で作成するICT教材に必要な機器等も望ましい物的資源である。 活動資金：活動が持続的に行えるよう、ボランティアの方々へ適切なベネフィットを与えることができる財源が望ましい。そして、自主事業の収益で存続ができるよう事業運営を行う。 ナレッジ：子どもたちがどのような状況にあるのか必要な支援はどのようなものかをしっかりと把握する。</p>				<p>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <p>この1年間の活動を通じて</p> <p align="center">子どもたちが楽しく学べる環境づくり</p> <p>を達成しました。</p> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>ボランティアスタッフと子ども達との関係性が飛躍的に向上した。無料塾にまた来たいと思ってくれるように変化した。</p>
<p align="center">■ 活動報告</p>			<p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>●無料の学習支援塾パラダイムの実施 沖縄県内の経済的困窮の状態におかれた子どもたちに対し、学習支援（無料塾）を提供した。対象は小学生から中学生である。週に3～4回、学習支援の場を開催した。子どもたちの心理状態に良い変化が現れる(自己肯定感の向上)ことと学習習慣が定着することを目的として、様々な施策を実施した。 特に効果のあった施策として、学習支援の前にボードゲームをして生徒同士やボランティアスタッフとの交流を設けたことがあげられる。勉強に対して後ろ向きな気持ちで学習支援に参加する子どもが多かったことや初めて合うスタッフと中々打ち解けられないという課題があったため、勉強の前にレクを取り入れるようにしたところ、子どもたちの心理状態が良くなった。スタッフ側も子どもと打ち解けるため機会をつくることができ、双方に良い効果を得ることができた。 また、学習支援終了時には子どもたちに今日の感想などを書かせ、それをボランティアスタッフがフィードバックするという施策も行い、勉強に対してPDCAが回せるような取り組みを行った。</p>			<p>●心理的に良い変化が現れる(自己肯定感の向上) 目標アウトカム：85.7%の子どもが3段階以上に到達するという結果になった。 ●学習習慣が身につくという 目標アウトカム：85.8%の子どもが3段階以上に到達するという結果になった。 ●利益を生み出し、学習支援にかかる財源を確保する 目標アウトカム：毎月2千円以上の予算を計上することができ、目標を達成した。 ①週3～4回の学習支援が実現すること②スタッフの子どもと関わるスキルが向上すること ③持続的な運営のために主体的に携わるスタッフを増加させること 目標アウトカム：①週3～4回の学習支援を達成（※1月～2月の新型コロナウイルス流行状況では週に0～2回の開催となった） ②子どもと関わるスキル(別表)習得者4段階習得者5名以上（90%以上） ③主体的に運営に携わるスタッフ4名→6名</p>		
<p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>		
<p>●自己肯定感の低い子どもとの関わり方 無理に自信をもたせるのではなく、レクや会話を通じた関係性づくりが重要であるとの気がつきがあった。 ●学習意欲を向上させるノウハウ 学習意欲の面では、学習後に生徒にコメントをさせ、その後ボランティア講師がフィードバックするという施策が効果的であった。 ●学習塾経営のノウハウ 学習塾事業を通して、持続的に事業を実施するマインドをセットすることができた。予算管理やコスト削減、経営計画など経営に関する様々な知見を得ることができた。 ●スタッフ教育 研修及びスタッフ間の交流の重要性を把握することができ、教育システムもある程度ナレッジ化することができた。</p>			<p>当団体は、「子どもを含めた地域住民同士が相互に自分の知識や技術を分かち合う社会」が望ましいと考えている。その望ましい社会を達成する上では、継続的な人材確保と資金調達課題である。子どもに勉強を教える人材や学習支援を運営する人材、その人材の育成を担う人的資源の確保を行わなければ、望ましい社会を達成することができないためである。当団体は、有給スタッフがおらず、ボランティアスタッフに依存しているため、人材に関しては大きな課題が残る。また、資金面にも課題がある。学習支援を行なう会場を借りる際や子ども達の教材にはどうしても費用がかかる。今回は学習塾事業の利益を僅かながら学習支援の方に回したが、経営を維持するのに精一杯である。そのため、自主事業だけでなく、寄付金や協賛金を集められるような運営体制の構築が今後の課題となる。</p>		